

「清水勇人市長と語る」タウンミーティング【桜区】

〈開催概要〉

日 時：令和2年9月12日（土） 14：30～16：00

会 場：桜区役所 4階 大会議室 A・B・C

参 加 者：13名（傍聴者1名）

市出席者：市長、都市経営戦略部

事 務 局：市長公室広聴課

開催テーマ：市民憲章・市民の日について考えよう

◆市長

さいたま市長の清水勇人でございます。

皆様におかれましては、日ごろより、市政全般にわたり、多大な御支援、御協力をいただいておりますことに、この場をお借りして御礼申し上げます。

そして今日は、ここ桜区においてタウンミーティングを開催したところ、皆様に御参加いただきましたことに、重ねて御礼申し上げます。

このタウンミーティングは、私が市長に就任した平成21年から毎年実施しており、昨年度までに151回、延べ3,121人の方に御参加いただき、貴重な御意見を頂戴してまいりました。

さて、平成13年に3市合併により誕生したさいたま市は、来年、令和3年に誕生20周年の大きな節目を迎えます。この節目に、さいたま市に対する市民の皆様の思いを込めた市民憲章を制定し、その思いを未来に受け継いでいきたいと思っています。また、皆様がさいたま市に、より愛着や親しみを持てるような日として、市民の日を定めることも検討しています。

そのために今年は、市民の皆様から様々な御意見をお聞かせいただき、市民憲章と市民の日の内容について、検討を進めることとしております。その一つとして、本日のタウンミーティングを開催することとなりました。

このあと、まず私からさいたま市のこれまでの歩みや、市の最も基本的な計画におけるさいたま市のビジョンなどについて御説明させていただき、その後、御参加の皆様から、御意見や御提案をいただきたいと考えています。

今、私たちは新型コロナウイルス感染症の脅威という、大きな困難に直面していますが、私たちは、さいたま市を内外に誇れる市とし、未来に受け継いでいかなければなりません。今日は、この思いを皆様と共有できるようなタウンミーティングとしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

テーマ説明

市民憲章・市民の日について考えよう

◆市長

【スライド1】

今回は、本市が誕生20周年を迎える令和3年度の制定を目指している市民憲章、市民の日について、皆さんの御意見を伺いたいと考えています。

【スライド2】

本日の進行について御説明します。

まずは、私から、市民憲章や市民の日とはどのようなものか御紹介し、御意見をいただく参考として、さいたま市のこれまでの歩みや今後のまちづくりに係る新たな総合振興計画、そして、さいたま市の特徴や魅力について、触れてみたいと思います。

そののち、意見交換の時間では、まず市民憲章について、御意見を伺いたいと思います。それに対する私からのコメントやお答えをしたのち、最後に市民の日について、御意見を伺いたいと思います。

【スライド3】

まず、「市民憲章」とはどのようなものか、御説明します。

市民憲章は、法律などで一律の定義があるわけではありませんが、さいたま市が考える市民憲章とは、「郷土への愛着や大切に受け継いでいきたいもの、住みよいまちにするために取り組むべきことなど、市民の皆さんの思いを分かりやすく表現したもの」と言えるのではないかと考えています。特に形式や長さなどに決まりはなく、市民憲章を制定する市町村ごとに様々な形が存在します。

【スライド4】

政令指定都市の中で、比較的近年になって市民憲章を制定したのが静岡県浜松市です。制定されたのは平成23年で、制定の契機となったのは、浜松市政100周年だったと伺っています。

この憲章を、形式の面で見ますと、郷土の自然や憲章の意義がうたい込まれた前文が置かれています。これに続いて、「美しい郷土を未来につなぐこと」に始まる、5つの項目が、市民の皆さんによる決意表明の表現として掲げられています。

浜松市の場合は、前文が置かれていますが、前文がない市民憲章ももちろんあります。

また、浜松市では、5つの項目で整理されている部分も、自治体によって様々な表現や内容でまとめられています。

【スライド5】

次に、市民の日についてお話をします。市民の日につきましても、一律の規定はありませんが、市民の皆さんがその日を市民の日としてお過ごしいただくことで、さいたま市に一層親しみを感じていただき、さいたま市に対して愛着や誇りを持っていただけるもの、と考えています。

【スライド6】

政令指定都市の中で、市民の日を制定している例の一部を御紹介します。スライドのとおり、市政を施行した日、市役所の開庁した日など、その都市にとって大きな節目となった日を記念し、定められています。

また、その日にどのような特例的な措置があるかについては、公共施設の無料開放や、

学校の休校、学校給食で特別メニューを出すなどの事例があります。

さいたま市では、今御覧いただいたような市民憲章、市民の日を制定することで、市民の皆さんのさらなる一体感の醸成につなげていきたいと考えています。

【スライド7】

では、市民憲章や市民の日を制定しようとしている今日に至るまでのさいたま市の歩みを、皆さんと一緒に振り返ってみたいと思います。

さいたま市は平成13年（2001年）5月に、旧浦和市、与野市、大宮市の合併で誕生しました。スライドの青い線で誕生以来の人口の変化を示していますが、誕生した時の人口は約103万人でした。

その後、平成15年には、政令指定都市に移行し、平成17年には旧岩槻市と合併し、現在の10区が形づくられました。

平成30年には人口130万人を突破し、今や人口131万人を擁する大都市として発展してきています。

そして、来る令和3年度（2021年度）が、さいたま市にとっては、誕生から20周年という大きな節目となります。

【スライド8】

市民の皆さんと一緒につってきたさいたま市の歴史について、もう少し振り返ってみたいと思います。

さいたま市が誕生した翌年の平成14年には市の木、市の花、市の花木を制定しました。また、この年、さいたま市の将来都市像を盛り込んだ総合振興計画の基本構想が議決され、ここから、総合振興計画に基づくさいたま市のまちづくりがスタートしています。

平成15年には、市の歌「希望（ゆめ）のまち」を発表しました。

平成17年には岩槻市と合併し、岩槻区を含めた10区の色を制定しました。また、この年は戦後60年であり、さいたま市は平和都市宣言を制定しました。

平成20年には「岩槻の人形」「大宮の盆栽」「浦和のうなぎ」をさいたま市の伝統産業に指定しました。

平成23年は誕生10周年であり、この年、10区の「区の花」と、都市イメージキャッチフレーズ「のびのびシティさいたま市」をそれぞれ決定しました。

そして、いよいよ誕生20周年となる来年、この大きな節目の年に向けて、皆さんと一緒に市民憲章をつくりたい、そして、市民の日を定めていきたいと考えています。

【スライド9】

来年度の20周年の節目の年に、さいたま市は、新たな総合振興計画のスタートを目指しています。これは、誕生以来の基本構想にもとづき、基本計画、それに続く後期基本計画のもとで進めてきた総合振興計画の計画期間がいよいよ今年度で満了を迎えるからです。

新たな総合振興計画の案では、本市は、将来都市像として「東日本の中枢都市」と「上質な生活都市」の2つを掲げ、令和3年度から12年度までの10年間の計画期間を予定しています。

【スライド10】

この計画では、大きく2つの視点に立った重点戦略を掲げています。

その1つは、さいたま市の魅力をさらに伸ばしていこう、という視点です。さいたま市には、見沼田圃に象徴されるような首都圏有数の自然、文教都市の歴史に裏付けられた特色ある学校教育など、御覧いただいているような5つの魅力があると考えており、これらの魅力をさらに伸ばしていく取組を進めていきたいと考えています。

【スライド11】

またもうひとつの視点としては、迫りくる人口減少の到来や、環境問題の深刻化など、さいたま市が直面している諸課題に対し、しっかりと対応していこう、という視点です。

さいたま市もあと10年ほどで、人口のピークを迎えるとの推計があります。社会経済の大きな変化が見込まれる中、これらの課題を克服し、さいたま市を持続可能なまちにしていくため、しっかりと取り組んでいく必要があります。

このような視点をもつ新しい総合振興計画をスタートさせる令和3年度は、さいたま市が未来に向かって新たなスタートを切る大変重要な節目となります。

【スライド12】

最後に、先人の御努力や市民の皆さんのお力によって、さいたま市がどのような特徴や魅力を備えてきたか、触れてみたいと思います。

御覧いただいている2つのグラフは、さいたま市の教育についてのデータです。画面左は中学生のデータ、画面右は小学生のデータです。学力が高いことはもちろんですが、右のグラフにあるように、さいたま市では、「自分にはよいところがある」という自己肯定感が、全国平均に比べ大変高く、とても素晴らしい結果であると考えています。

【スライド13】

また、民間のランキングなどでも、さいたま市は高い評価をいただいています。左の表は東洋経済新報社が実施した幸福度ランキング“2018年版”です。20政令指定都市中第2位と高い評価をいただきました。今年9月に発表された最新の“2020年版”では総合で1位の評価をいただいています。

続いて右の表は株式会社リクルート住まいカンパニーが実施した、住みたい街ランキングです。こちらのランキングでも大宮が4位、浦和が10位と高い評価をいただいています。

【スライド14】

最後に、市民の皆さんによる声です。

毎年実施しているさいたま市民意識調査では、さいたま市を住みやすいと感じる市民の割合は、調査開始以来伸び続け、昨年度の時点では過去最高の84.4%にのぼり、現在の場所に住み続けたいと答える方の割合は、86.2%にのぼり、いずれも過去最高の水準に達しています。

こうした評価は、まさにさいたま市民の皆さんや、さいたま市内で事業活動を行う皆さんが、さいたま市誕生以来、今日まで、まちづくりやまちの魅力向上に御尽力いただいたことのたまものです。

【スライド15】

令和3年、2021年は、さいたま市が20周年を迎え、新しい総合振興計画のもとでまちづくりをスタートさせる、さいたま市の歴史の中でも、大変大きな節目となります。

これまでの20年の歩みを踏まえながら、新たなさいたま市の創造をしていくために、さいたま市にふさわしい市民憲章を皆さんと一緒に考え、市民の日を定めてまいりたいと考えています。

本日は、どのような内容の市民憲章、あるいは市民の日のあり方がふさわしいか、忌憚のない御意見をお聞かせいただきたいと思います。

【スライド16】

意見交換では、まずは「市民憲章」について御意見を伺いたいと思います。

皆さんは、どのような言葉や内容を盛り込みたいとお考えですか。皆さんのお考えをお

聞かせください。

【スライド17】

意見交換の後半には、市民の日について御意見を伺いたいと思います。

皆さんはどのような過ごし方ができたら、市民の日にふさわしい1日になるとお考えですか。皆さんのお考えをお聞かせいただきたいと思います。
それではよろしく申し上げます。

参加者との意見交換

●参加者

私は自治会の活動を行っていきまして、地域の活動から感じることや、市民憲章にどういうことを盛り込んでいただきたいかについてお話しします。自治会活動を通じて、地域の協力、協働、共助や地域のコミュニティの大切さが非常によくわかってきました。それとともに行政には、防犯・防災、交通ルールの問題、市民生活のさらなる向上を目指すための教育・文化の拡充、地域特性を生かした調和と活力のあるまちづくりをお願いしたいと感じています。

実際に市民憲章をつくると、簡単に変えるわけにはいかないもので、内容としては非常に普遍的なものになります。ですが、市民を鼓舞するようなインパクトのある言葉も市民憲章には盛り込んでいただきたいという思いもあり、この辺りの兼ね合いが非常に難しいと思います。

今回のこの新型コロナウイルス感染症の拡大が人々の健康や経済活動に大変大きな打撃を与えていますが、このウイルスの最も恐ろしいところは、人と人とを分断してしまうところにあります。このような時代だからこそ、相手を思いやる気持ちや、お互いに助け合うことが大変重要なことではないかと思えます。

ですから、市民憲章の中には、一番身近な家族や御近所を大切にする、その絆の大切さを是非盛り込んでいただきたいと思えます。

●参加者

私は、文化を大事にすること、新しい挑戦を止めないこと、豊かな心身を育てること、この3つを大事にしていきたいと思っています。

まず、文化を大事にすることについてですが、私は大学のゼミで、さいたま市の文化として4つ、漫画、浦和のうなぎ、岩槻の人形、大宮の盆栽があることを知りました。しかし、周囲の人でこの4つの文化のことを知らないという人がたくさんいます。国際的な都市を目指すために、インバウンドの獲得が大事だと思うのですが、さいたま市で観光となると、東京都と比較すると、魅力の面で劣ってしまうと思います。そこで、このような4つの文化を大事にする市であるとアピールしていくことは、外国人受けもよいと思えますし、市民がこの文化を知ることが大きな宣伝につながるのではないかと思います。

また、新しい挑戦をしていくことですが、さいたま市は比較的財政も健全で、人口も増え続けています。なので、さいたま市が新しい挑戦をしていき、政策をつくる上で大切な先例をつくっていくことが、東日本のリーダーシップを発揮していく中で大事だと思います。

また、心身を育てていくことですが、私が体育館を利用しようと思ったときに、利用予約がしづらかったという経験があります。新型コロナウイルス感染症の拡大防止で運動不足も問題になってきていますので、心身を育てていくことをこの市民憲章に盛り込んで、体育館を利用しやすくし、市民の交流の場にしていただけると嬉しいです。

●参加者

自治会の環境衛生の担当として活動している中で多いのがごみの分別の問題です。地域の方々が、ごみの分別の細かいことがわからなかったり、また、外国人が増えていて、その方たちにどう伝えるのかという課題もあります。ですので、環境に関して市民憲章に盛り込んでほしいと思います。

また、私は神田地区で交通指導員をしています。子どもたちの朝の通学を見守っているのですが、挨拶をしない子どもたちが大分増えてきてしまっているの、子どもたちの笑

顔を絶やさないとということ、市民憲章に取り入れてもらうことも大事だと思います。

あと、神田で「神田の祭りばやし」というのがありまして、神田地区の方々がずっと昔から受け継いできた文化なので、残してほしいという思いもあります。ただ、古くて今の時代にそぐわないものもあるので、そういうものを新しい形に少し変えていくということも大事だと思います。

●参加者

さいたま市に引っ越してきてまだ2年半ぐらいなのであまり詳しくはないのですが、住んでみて日本一のベッドタウンだと感じています。

今までは関西や都内に住んでいたのですが、さいたま市は子育てがとてもしやすいです。ただ、タウンミーティングのように幅広く市民の声を聞ける会では、託児ありきでお願いしたいです。

市民憲章についてですが、さいたま市は自然もたくさんありますし、もっと子どもが増えるとよいと思うのですが、全国に比べて出生率が低い状態のようなので、是非3つの項目を載せていただきたいです。

まず1つ目が、「一人ひとりの声が活かされるまち」です。SNSを活用したり、学校などに市長へ質問ができるようなポストを設置していただいたりして、みんなの声が生きるまちになってほしいと思います。

2つ目が、「地域で子育てできるまち」です。核家族化が進んでいますが、家族だけで子育てをするには限界が来ています。私が今4人目を妊娠中なのですが、いろいろ困ることが多いので、市でバックアップしていただきたいと思います。

そして3つ目が、「家族との時間が持てるまち」です。家族持ちの方も单身の方も、家族、友人との時間を持てるよう、ワーク・ライフ・バランスを取れるように、市でバックアップしていただきたいと思います。

さいたま市に子どもを増やすためには、例えば今、新型コロナウイルス感染症の拡大で学校にも行けず、孤立してしまっている学生を市が助けることで、この世代が子育てをする年代になったときに、市にお返ししようということに繋がってくるのではないかと思います。

●参加者

私は、いきいき長寿応援ポイントを利用しながら10人ぐらいのメンバーの代表として活動しています。平日は毎朝ラジオ体操をして、その後に、桜区役所の近くの土手をウォーキングしているのですが、すごくその上からの眺めがよくて、メンバーと、さいたま新都心のビルが一望できる自然があるのがよいねと話しています。ただ、歩いているときに、高齢者も歩きやすいように整備していただけたらよいねとも話しています。

それから、土手から降りると、田園風景がまたすごくよいんですね。珍しい野鳥が見られる場所でもあります。さいたま市にも見沼や秋ヶ瀬など、素晴らしいところがたくさんありますので、是非ともそういうところを残していただきたいと思います。

●参加者

私は、30年間浦和区に住んでいます。さいたま市は、都市でもありながら緑豊かで、とても住みやすいまちなので、今後もずっと住んでいきたいと考えています。

ただ一方で、他の地域、特に都心から見たときに、知名度の低さであったり、「ダサイたま」のようなネガティブなイメージもあったりします。そこで市民憲章に入れていただきたいのは、「誇り」です。まずは自分たちが誇れるまちだということアピールできるまちにしていきたいと思います。

●参加者

最初のスライドの、さいたま市の魅力の説明で、小・中学生の「失敗を恐れなくて挑戦している」、「自分にはよいところがある」という自己肯定感は本当に大切なものだと思います。その数値が全国平均と比べてかなり高いのは本当に素晴らしいことなので、是非このことを市民憲章に盛り込んでいただきたいと思います。一人ひとりが輝けるということと、自分を認めることにより相手を尊重できて、さらにみんなが成長できるということは市民憲章としてもよいと思います。

大学のゼミの活動の中で、埼玉県外国人児童数がどんどん増えている現状を知りました。自己肯定感が上がることによって、自分を認め、相手を認めることができ、多文化共生が進んでいくのではないかと考えています。

先ほど自治会の方もおっしゃっていましたが、地域で子育てをするというのは本当に大切なことだと思います。地域で教育と文化と伝統を調和していくという内容を、市民憲章に盛り込んでいただけるとよいと思います。

●参加者

先ほど、市長から御説明があった中に、さいたま市の特徴・魅力というところで、さいたま市を住みやすいと思う人、さいたま市に住み続けたいと思う人の割合が高く、大変素晴らしいと思うのですが、これは各地域における活動が数字に表れているのだと思います。

越谷のある民間企業は、四国の阿波踊りを地域に紹介し、それが定着してきています。地域と連携を取ることが、結果として住みやすいとか住み続けたいということにつながるのだと思います。

桜区の久保保地域では、いろいろな活動を、自治会等含めて一体化してやろうという考え方で活動しています。体育祭や夏祭りをやれば、たくさんの方が集まってきます。この地域では、そういう努力をしてきているのです。住みやすい、住み続けたいという結果は、その地域の方の努力によってなっているのだということを、市長さんに御理解いただきたいです。

どのような形の市民憲章にするかということについてですが、10年ぐらい前に市民憲章ができるであろうと期待する時期もありました。実際にはできていませんが、旧4市には市民憲章がありました。それぞれの地域に住んでいる方々は、その旧市のものが市民憲章だというような気持ちで、現在まで継続しているのです。したがって、それらをうまくつなげていき、地域に根差す市民憲章をつくっていただきたいと思います。

●参加者

私は、幼い頃からさいたま市に住んでいて、さいたま市の英語教育がすごく素晴らしいと実感しました。私が中学生の頃の話になるのですが、姉妹都市や姉妹校と連携をしたホームステイ事業あり、それに参加した際とても貴重な経験をさせていただいたので、さいたま市の英語教育の分野は素晴らしいと思っています。

今回この市民憲章に、国際化やグローバル化への対応という言葉を入れることで、さらに英語教育を盛り上げていただければ、実際に恩恵を受けていた者としてはすごく嬉しいです。

●参加者

市民憲章、市民の日について、私なりにいろいろ調べてみました。市民憲章は、そのまわりの美しさや、育んできた文化等を肯定的にとらえ、それを発展させていこうというものだと思います。さいたま市は特徴のある市だと思うので、そういうものもベースに市民憲章を考えたらどうかと思います。

その特徴の1つが、さいたま市というのが交通の要衝、東北への玄関口として大きく発展してきたということだと思います。

先ほど、市長の説明にもありましたが、さいたま市の人口は10年ぐらいまだ伸びると

ということです。東京の存在感は、今後も大きく変わるわけではないので、さいたま市の重要度というのは増していくのだろうと思います。

そう考えると、市民憲章には、交通の要衝であること、文化・芸術を育て高い教養を保ってきたこと、そしてそれらを今後いかに発展させるかということについても言及してほしいと思います。

●参加者

市内の企業に勤めています。

私は、さいたま市民ではないのですが、他の市から見たさいたま市という視点が、市民憲章をつくる参考になればと思ひまして、お話しさせていただきます。

さいたま市は、4つの市が1つになったということで、個々の市にはそれぞれの歴史が当然あると思うのですが、他の市から見ると、さいたま市は若くて活気があるまちというイメージがあります。

さいたま市には、経済、文化、自然、スポーツなど全てがそろっているというイメージを抱いておまして、他市の市民からすれば憧れの市であるという印象です。

私は、さいたま市はリーディングシティと言えらると思ひます。先ほど他の方の御意見にもありましたが、このことに対する誇りを持つということ、市民憲章に入れられたらよいと感じています。

また同時に、非常に変化の激しい時代ですので、こういった時代においても持続的な成長を続けていくためには、常にチャレンジを続ける市民であることを市民憲章に盛り込んでよいと感じました。

●参加者

私は、さいたま市内の小中学校で学んで育ちました。高校、大学、それから仕事は県外なのですが、これまでに接した県外の方と、それから私の地元であるさいたま市の皆さんとの交流や、小学校時代になじみのあった浦和市の市民憲章ですとか、小中学校の校歌などを思い返しながら考えてみました。

さいたま市のよいところは、1つ目に、暮らしやすいところです。都市の便利さと自然の豊かさのバランスがちょうどよく、特に自然は、そこに暮らす人にとってより親しみやすいものへと改善されていったように思ひます。

2つ目に、スポーツ、文化、芸術、環境問題など、いわゆる不要不急と見られがちなことへの関心が高いところです。それが、市民にごく当たり前のように根付いていて、素晴らしいと思ひます。

3つ目に、教育に対して非常に関心が高いところです。このことと関係するのかもしれませんが、子育て世代に限らず、ごく普通の市民の幼児、児童、生徒たちへの目配り、気配り、心配りが素晴らしいと思ひます。

そういうことを踏まえて、市民憲章に盛り込みたいのは、「お帰りなさいが似合うまち」。いわゆる観光地ではないけれども、大きな災害もなく住みやすい。「ダサイたま」と呼ばれても笑って受け入れる懐の深さ。東日本の玄関で都会を目指す人、地方に羽ばたく人の志も応援すれば、都会や日々の生活に疲れた人にさりげなく寄り添う。そんな誰にとってもふるさとになれるまち。」

今回、桜区ということで、その桜区から発信することとして、「ケヤキ並木のようなまち、さりげなく豊かな木陰をつくる、鳥たちのねぐらになる、旅人の道案内であり休憩所、来し方行く末を指し示す、サクラソウのようなまち、荒川の自然と調和、水害など厳しい試練と辛抱強く向き合って誠実に生きる、派手ではないけれども、ここにしかない花を咲かせる、シラサギのようなまち、川・沼そこに住む生物などに生かされてともに生きる、ここでしっかり力を蓄え、時が来たら世界へと飛び立っていく。」

すみません、皆さんが具体的なことをおっしゃる中で、非常に抽象的なことになりまし

た。

◆市長

地域の協力・協働・共助、また、コミュニティの大切さを引き続き継承してほしいというお話がありました。

さいたま市は、こういった地域のコミュニティが残っているまちだと思っています。自治会活動だけでなく、地域の皆さんや団体等の御協力により実施しているチャレンジスクールも、令和元年度は延べ約17万人の子どもたちが参加をし、延べ約4万7千人を超える地域のボランティアがサポートして成り立っています。このようなことが地域の文化として、ずっと根付いてきているまちであると私も感じます。

新型コロナウイルス感染症が拡大することで、人と人が分断されてしまう可能性もある時代の中だからこそ、そういった人と人とのつながりが改めて大切だと感じるのだろうと思います。

文化を大切にしていって、新しいものにチャレンジをしていく、それから豊かな心と体を育てていくというお話をいただきました。

地域の文化は、漫画であったりうなぎであったり、人形であったり盆栽であったり、どちらかと言うとコアなファンが根強い文化だと言えていると思いますが、漫画は今や、世界中に人気広がっていますし、また人形も、多くの方に根付いた文化にもなっています。盆栽も、3年前に世界盆栽大会が行われましたが、こんなにも世界中の人たちが盆栽に注目しているのかと、改めて私たちもびっくりしました。また、うなぎについては、かば焼きの発祥の地と浦和は言われています。一方で、地域に根付いているこの文化を知らない人も多いのも事実だと思います。

そういった、さいたま市が培ってきた文化にももう1回焦点を当てながら発信をして、知っていただくことが必要だと思います。

また、新しいものにチャレンジをしていくというお話もありました。さいたま市は、古いものもたくさんあるのですが、新しい方々がたくさんいらっしゃるのでも、新しいものが次々と生まれるチャンスがある都市だと思います。そういったところもさいたま市の魅力になるのだろうと思います。

また、心身を育てるというお話もありました。さいたま市も、スポーツについては積極的に振興に努めていますが、施設を使いやすくなるよう改善しながら、市民の皆さんが、いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも運動ができる、そんな環境づくりをしていきたいと思っています。

環境問題やごみの問題についてお話をいただきました。

「さいたま市民意識調査」の中では、ごみの処理やリサイクルについては、満足度が高い項目となっています。これは、皆さんが分別や、いろいろな取組をしてくださっている結果だろうと思います。

一方で今、ごみ置場の問題など、いろいろなことがコミュニティの中では課題にもなっているところです。

環境問題というのは、人と自然との関わりの問題でもあると思いますが、自然を大切にしていって、次世代に継承していくこともすごく大事なことでと思っています。

また、交通指導員もされているとのこと、ありがとうございます。その中で、子どもたちの笑顔を絶やさないまちであってほしいというお話や、最近、挨拶が少なくなってきたというお話もありました。私はさいたま市内の全ての学校を、2周以上訪問してきました。朝の挨拶運動にも行きましたが、小学校低学年ぐらいだと元気いっぱい挨拶してくれますが、だんだん年齢が上がっていくにつれて挨拶が少なくなっていると感じます。挨拶はコミュニケーションの基本であり、人と人とのつながりを大切にするさいたま市と

しては本当に大切なことだと思います。これからも挨拶をしっかりできる子どもたちであってほしいと私も思います。

あと、神田のおはやしの話もありました。さいたま市は、旧浦和市も旧大宮市も、それぞれの地域でおはやしが残っていて、皆さん御苦労されながら一生懸命、地域の夏祭りを盛り上げてくださっています。こういった地域の文化を大切にしていけることが、さいたま市を大切に、人を大切にしていけることにつながるのではないかと思います。

さいたま市は日本一のベッドタウンだと思うという言葉いただきました。

さいたま市は、転入者が転出者を上回った転入超過の数が、2年連続で全国第3位となっていて、特に15歳以下の年代層でいうと、2年連続全国第1位となっています。合計特殊出生率でいうと、さいたま市は低い状況ですが、他の地域から子どもと一緒にさいたま市に引っ越してきてくださっている方がいます。さいたま市は若い世代の方に住んでいただいているまちだと思っています。

それは地域で、いろいろな形で皆さんが子育てに関わっていただいて、子どもたちを育てやすい環境があるからだと思います。私たち行政や地域の皆さんで、子どもをより育てやすい環境をつくっていくことは、合計特殊出生率をあげることや、若い皆さんがさいたま市で子育てをしたいと思っただけのまちへとつながっていくと思います。

また、家族で時間を持てるまち、という御提案をいただきました。さいたま市は、東京へ通勤されている方は、どうしても通勤通学で一定の時間が取られてしまいますので、家族で過ごす時間が取りにくいという環境もあるかと思っています。でもそういった家族の絆を深めていくということもすごく重要だと思います。

新型コロナウイルス感染症が拡大したことで、家族のつながりというのは、すごく重要だと私自身も感じます。家族や地域を大切にする、そういう市でありたいと思います。

「シルバーポイント事業」を活用していただいてありがとうございます。高齢者の皆さんが健康で元気になっていただくというのも、さいたま市の強い願いです。

ラジオ体操やウォーキングをした後の素晴らしい眺めのお話もいただきました。さいたま市は、都会と自然が本当にうまく共存した都市だと思います。その魅力をどう次に生かしていくのか、継承していくのかは本当に重要なことだと思います。

私もこの新型コロナウイルス感染症の流行が始まった頃から8月ぐらいまで、仕事以外ではほとんど外に出ることがありませんでした。私は見沼区の自然豊かな場所に住んでいて、10分か15分歩くと、見沼たんぼが近くに見えるのですが、先日久しぶりに朝早く起きて、空の青さとか、自然とか、たんぼで稲が伸びている光景を見てすごくほっとしました。コロナの時代になって改めて皆さんもこの自然の素晴らしさを認識されているような気がします。自然を大切にしていけるまちであり続けたいと思います。

都市と自然が共存して住みやすいまちというお話をいただきました。

一方で、少しネガティブなイメージがあるので、自分たちにもっと誇りを持ったらいいのではないかというお話をいただきました。私もその通りだと思います。

私は、これからのまちづくりのテーマは、「絆」と「誇り」の2つではないかと思っています。

「絆」は、人と人とがどう関わって、どうつながってそのまちを形成していくか。「誇り」は、自分たちの地域や歴史や文化に対して誇りを持ち、自分たちもそれらに関わりながらまちをつくっていくということだと思います。

最近は、シビックプライドという言い方もしますが、市民の皆さんから、さいたま市はこんなに素晴らしいんだということが、いっぱい出てくるようなまちになるとよいと思います。非常に素晴らしい言葉だと思います。

失敗を恐れずにチャレンジをする、自己肯定感が高いという、今のさいたま市の子どもたちの状況についてお話をいただきました。

学校の成績もさいたま市はよいのですが、一番自慢に思うのはこの部分です。自分にはよいところがある、学校に行くのが楽しい、こう言ってくれる子どもたちがたくさんいるというのは誇りです。日本人の子どもたちの自己肯定感は低いと言われていますが、さいたま市は、「自分には、よいところがある」と答える子どもたちの割合が結構高いです。小学校はテーマ説明でもお話ししましたとおり全国平均よりも8.7ポイント高いのですが、中学校はさらに高い数字となっています。その要因は何かと考えた時、もちろん家庭の中で、子どもたちがすくすく生き生きと育てられているというのもあると思います。ですが、一番の要因は地域だと思っています。もちろん学校の先生方も頑張ってくれていると思いますが、親とか学校の先生以外の人たちが、いろいろ応援をしてくれたり、ほめてくれたり、声をかけたりしてくれているという関係性がさいたま市にはあるから、子どもたちにとって上下関係だけではないいろいろな関係が生まれてきて、そして自己肯定感につながっているのではないかと考えています。

そういう子どもたちが多いことは、学校の成績が高いことよりも嬉しいものだと思います。それを支えていただいている地域の皆さんや市民の皆さんに、私も感謝をしています。自分を認め相手を尊重できる、そういった社会になるように、さいたま市が率先して努めていきたいと思っています。

越谷の民間企業が地域に阿波踊りを紹介したというお話がありました。その企業の創業者の方がふるさとの阿波踊りを紹介して、南越谷地区に根付かせたそうです。本当に多くの費用がかかり、また多くの人に関わる大変な事業だったと思いますが、年々大きくなって、関東でも屈指のお祭りの一つになっていると思います。

お話にあったとおり、地域で一体となっていていろいろな行事が行われています。私も大久保地域の運動会に何回かお邪魔しましたが、本当にたくさんの方が集まって一緒に汗をかき、一緒に楽しみ、一緒に喜んで悔しがったりしています。こういう共通の体験をすることはすごく大切だと思います。だんだんとそういったことがしにくくなったり、面倒くさくなったりというような方もいらっしゃるのかもしれませんが、でも、これが続いているからこそ、子育てもしやすくなる、犯罪も少なくなるといったプラスの面につながってくると思っています。

そして、4つの市民憲章がそれぞれの市民の心のベースにあったのではないかと、それをうまく活用してほしいというお話がありました。たしかに、この4つの市の市民憲章にヒントが隠されている部分もあると思いますので、それをしっかりと見つけていきたいです。ですが、違う歴史、違う地域であった4つの市が合併し、1つの市としてこの20年間をともに歩んできた歴史はすごく重いと思います。そして、その一つ一つの市が合併することによって、これまでとは違う魅力も備えたまちになったと思っています。

そういう意味では、それぞれの市を大切にしながら、また今度はさいたま市としての一体感を強めながら、さらに求心力を持てるような市民憲章ができればよいと思います。

英語教育についてお話をいただきました。また、国際化、グローバル化といった言葉も入れたらどうかという御提案をいただきました。

さいたま市は今、「グローバルスタディ」という英語教育を小学校1年生から始めていて、英語教育の時間数では全国でナンバーワンになっています。昨年度の全国学力・学習状況調査の結果でも、政令指定都市の中で中学校英語は第1位でした。全国で見ても第1位になっています。英検3級相当の英語力を持つ中学3年生の割合も、77%近くあります。これは、さいたま市の英語教育がそのベースにあるのだと思います。

旧4つの市で、一生懸命それぞれ取り組んできてくださった教育が、今は地域の文化として根付いていると思います。これはさいたま市にとっては最も誇るべきことのひとつだと

思います。ですので、これからのグローバル化時代、国際化時代に対応した視点を大切にしていきたいと思います。

さいたま市は交通の要衝であるというお話をいただきました。まさにその通りだろうと思います。人口も、昨年と比べて1万1,000人以上増えています。本当に有り難いことにたくさんの方に、さいたま市を選んで住んでいただいていると思っています。その最大の理由は、先ほど申し上げた教育もありますし、また利便性が高いということもあると思います。都市部にも行けるし、東北などの地方にも行ける、そういった交通の利便性があるということも、さいたま市の大きな特徴です。その中で、文化・芸術、そしてお話がありました教育、教養といった魅力のあるまちになっていると思います。こういったところを私たちもこれから後世に継承していき、地域の誇りとしていきたいと思います。

外から見たさいたま市ということで、憧れの地であり、また、県内のリーディングシティであると評価をいただきました。

その中で、誇りを持つということが重要で、それを市民憲章に盛り込んだらどうかというお話がありました。さいたま市のよさを市民にもっと知っていただくことが、誇りにつながっていくと思います。この誇りを持つということはすごく大切なことだと思います。

それから、変化の激しい時代の中でチャレンジし続ける市であってほしいというお話もありました。これも本当にその通りだと思います。交通の要衝ということもあって、人や物や情報が行き交うまちですから、古いものも大切にしながら、変わらなくてはならないこと、変えなければならないこと、また新しい価値を生み出し続けられる、そんなまちでありたいと思います。

もうそのまま市民憲章にも使えそうな素晴らしい御提案をいただきました。表現していただいたとおりであると思います。本当に暮らしやすいまちで、自然と便利さがバランスよくあるまちだと私も思います。

その中で、児童や生徒たちへの心配りが素晴らしいというお褒めの言葉をいただいたのも、これも本当に嬉しいです。

さらに、具体的な御提案もいただきました。そういった言葉なども参考にさせていただければと思います。

それでは、「市民の日」がこういう日になってほしい、こんなことをやってほしいなど、是非また皆さんから御意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

●参加者

私は北海道から大学進学に伴いさいたま市に来たのですが、こちらの人は少し忙しいというか、何かに普段から追われているという印象が強いです。私も、せっかくの休日であるのに勉強しないと、せっかくだから遊ばないと、みたいな気持ちがあります。

なので、市民の日は、一段落していただく、特に何もしないという日にしてほしいと思います。学校を休みにしたり、休業に協力してくれる企業とかは、難しいとは思いますが休みにするとよいと思います。

ただ、それだけだと少し寂しい気もします。私は散歩が趣味なのですが、散歩をしていると、普段通学しているルートばかり歩いていると気付かなかった景色などに気付くことがあります。ですので、市民の日には、是非普段とは違うことを少しだけしていただいて、気付いたことがあったら写真を撮っていただいて、SNSにハッシュタグをつけて投稿することで、皆さんで共有できるようなイベントができるとよいと思います。写真は、景色でもよいですし、高層ビルの美しさでもよいですし、友達の顔でもよいですし、お気に入りの店の料理でも何でもよいのですが、そういうものを上げていただくと、さいたま市

のよさを再発見することにもなりますし、郷土愛を感じることもできると思います。

投稿するだけだと、インセンティブがなく、やる人も限られてくると思いますので、抽せんでもよいですし、コンテストでもよいのですが、うなぎの食事券とか、商店街で使えるお金とか、バスの利用券とか、さいたま市に関連した景品があると嬉しいです。

●参加者

市民の日を設定するのは、非常によいことだと思います。ただ何をするかについては、公共施設の無料化、学校を休校にする、給食で特別メニューを出す、というのは、あまりぱっとしないと思います。

さいたま市というのは、国際都市、未来につながるようなものを生み出していくことのできるまち、という位置にあると思います。したがって、この市民の日には、国際都市や未来都市というものに関連付けるような催しをしてほしいと思います。市長や市が音頭をとって、姉妹都市もあるわけですから、海外からも人を呼び、市内の小中学生と交流するようなことをしていただきたいと思います。そういう日であれば大賛成です。

●参加者

秋ヶ瀬公園で花火大会をしてほしいです。

●参加者

今、10区それぞれで区民まつりを開催していますよね。区ごとに特徴を持ったイベントをやっているのだろうと思います。それを市全体で行うというのは、なかなか難しいのではないのでしょうか。

したがって、この市民の日の目的をきちんと定めていただいた上で、意見を求めた方がよいと感じています。

●参加者

埼玉県民の日は学校は休みですが、大人は休みではないので、県民の日自体も忘れてしまいます。なので、学校を休みにするというよりは、他市の例にもありますが、特別な給食が出るとよいと思います。私は市外の出身なのですが、小学校のころに特別な給食が出るという日があり、嬉しかったのを覚えています。

また、学校が休みになると、共働きの家庭では、保護者の方が子どもを預けるところを探さなければいけなかったり、どちらかが休まなければいけなくなったり、どこかに連れて行ってあげなければいけなかったり、といった負担もあります。大人から見ると、さいたま市内のスーパーなどで割引があったり、ポイントを増やすといったものがあったら面白いと思います。

●参加者

先ほどお話しいただいた方の、割引をするという意見は面白いと思います。

例えば、さいたま市のものを割引にすると、さいたま市を知る機会にもなるので、「さいたまを食べる」というのもよいと思いました。

●参加者

子どもは休みであっても両親が休みではない場合もあります。私はこの市民の日の前後1週間を「さいたま市民の日週間」として、例えば鉄道博物館や美術館、映画館等の割引券がいただけるとか、市民が楽しめる日になってもらいたいと思います。

◆市長

市民の日については、休みにしてほしいということでした。その休みを通じて散歩し

ていただいて、景色を見て、さいたま市のよさを再認識してほしいということでした。そういった中で、SNSでハッシュタグをつけた写真を集めたり、コンテストをしたらよいのではないか、というお話をいただきました。また、その商品もうなぎとか、さいたま市にちなんだものということで、非常に具体的な御提案をいただきました。

市民の日は、さいたま市を意識する日にしてほしいというお話でした。国際都市、未来へつながる都市というコンセプトや、そこから連想されるいろいろな事業や行事をしたらどうかというお話をいただきました。これも素晴らしい御提案だと思います。

さいたま市も、4つの市が合併しましたので、海外の姉妹都市も6つあります。国内の友好都市もありますが、市民の日に改めて集まっていたり、交流を深めるというようなことも必要かもしれません。面白い御提案でした。

秋ヶ瀬で花火大会を開催してほしいというお話がありました。現在は、5年に1回は荒川で花火大会を行っていますが、花火大会も非常に思い出に残るイベントではないかと思えます。

市民の日を設定するのであれば、きちんと目的をしっかりと決めて、その上で行った方がよいというお話がありました。そのとおりだと思います。なぜ、何をするために行うのか、こういったことをより考えていく必要があると思います。

通常の祝日でないと、子どもが休みになったとしても大人が休みではないということで、忘れられてしまうのではないかというお話がありました。

むしろ、休みというよりは、特別な給食にしたり、地域の商店街と連動した企画をしたりするとよいのではないかという御提案をいただきました。

それも面白いですね。行政として行事を行うだけではなくて、市民の皆さんや地域の皆さんも参加して考えていただいて、一緒に楽しい事業をするというのもよいと思います。

さいたま市に関連するものを割引して買ってもらうことで、さいたま市のよさを知ってもらうことになるというお話でした。

市民の日の前後1週間を「市民の日週間」としたらどうかというお話がありました。

休みの日をつくるかどうかは別として、家族全員一緒に過ごすということを考えると、なかなか1日だけだと難しい部分があるかもしれません。そういった意味では、1週間で盛り上げていくという発想も非常に面白いと思いました。

本日はお休みのところを御参加いただきましてありがとうございました。改めて、皆さんから頂きたいいろいろな御意見は、私たちにとって大変嬉しいこと、有り難いことがたくさんありました。

本日参加いただいた方の中には、実際に地域の中でいろいろな活動をしている方もたくさんいます。本当に多くの市民と一緒に汗をかいて、子どもたちや市民のために活動してくださっているのがこのさいたま市です。市民の力が何よりも素晴らしいのがさいたま市だと思います。

ただ、足りないことが幾つかあるというお話もありました。その中で、マイナスイメージがあったりするので、誇りを持てるまちへという言葉も出ました。去年は「翔んで埼玉」という映画が大ヒットして、私も見に行きました。散々埼玉のことを揶揄されながら、映画が終わるとなぜかみんな拍手するという珍しい光景でありました。映画が終わった後、みんなが拍手をしている映画というのは初めて見ましたが、それだけさいたま市や埼玉県民の皆さんの温かい心を感じたところでもありましたし、さいたま市や埼玉県民だっても

っと自信を持ってよいのではないかと思います。

私は、さいたま市民意識調査で「住みやすい」という数字が8割を超えるようになったころから、そのことを挨拶で度々言うようにしました。なぜかと言うと、8割を超える市民の皆さんが「住みやすい」、「住み続けたい」と言ってくれているということを私は実を言うと知らなかったからです。住んでみると本当に住みやすいし、便利などころもあるし、便利などころだけではなくて自然もあるし、周りに住んでいる人たちもすごくよい人ばかりです。さらに、子育てがしやすい、いろいろな人間関係がある中でもよい環境にある、さいたま市はそういうまちだと私は思っていて、その中で「住みやすい」という数字が高いというのは、もっと誇りにしてよいと思います。

今年、さいたま市は「CS90運動」の最終年で、2020年までにこの「住みやすい」という数字について90%以上を目指すという大きな目標を掲げて、市役所一丸となり、事業者の皆さんの御協力もいただいて行ってきましたが、いよいよその結果が出ます。84.4%から90%にいくまでは、かなり高いハードルですから、それを達成できたかどうかはわかりません。また、新型コロナウイルス感染症の拡大もありましたから、むしろ下がってしまうかもしれません。私はそれでもよいと思っています。市役所にもいろいろな仕事があります。病院で働く人、ごみの回収をしている人など、いろいろな仕事をしている職員1人1人が、さいたま市は住みやすいまちだと思ってもらえるように同じ目標を持って、日々考えながら仕事をしていこうというのがこの運動の大きな狙いでもあります。目標を立てて、みんなで頑張ってきてよかったと思いますし、これからもまた、引き続き住みやすいまちを目指していきたいと改めて思いました。

冒頭でも申し上げましたが、さいたま市は4つの市が合併してできた市です。旧何々市だとか、いろいろなことが言われた部分もあります。今もそういったところが全くないわけではないかもしれません。

しかしこの20年間、それまでは別々だった市が一緒になって、市民が一緒になっていろいろな活動をしてきました。同じ目標に向かって頑張ってきました。一緒に汗をかきながらいろいろな経験をしてきました。政令指定都市という、日本をリードするような市にさいたま市はなりました。私はこの20年というのを契機にして、もう一度このさいたま市のよさをみんなで振り返りながら、それから、未来へつながる、チャレンジし続ける、そういう市として、そして自分の市だけではなくていろいろな市にも貢献ができる、東日本にも貢献できるような市として発展させたいと思っています。

皆さんには、引き続きこの市民憲章についていろいろな御意見を頂戴し、一緒にこのまちづくりに御協力をいただければと思います。

今日は本当にありがとうございました。

■ 補足説明

「ごみの分別」について

ごみの分別の課題については、「家庭ごみの出し方マニュアル」の配布に加えて、ごみ分別アプリを提供しています。こちらのアプリは検索性が高く、英語や中国語、韓国語など5か国語にも対応していますので、是非ご活用いただければと思います。

(環境局 資源循環推進部 資源循環政策課)

「桜区役所近くの土手の整備」について

桜区役所周辺の河川については、国が管理する一級河川荒川、埼玉県が管理する一級河川鴨川があります。整備状況の確認、および土手の整備に関する提案事項については、それぞれ下記の連絡先までよろしくお願ひします。

【荒川】(国土交通省荒川上流河川事務所)

TEL : 049-246-6371 FAX : 049-246-7282

【鴨川】（埼玉県さいたま県土整備事務所）

TEL : 048-861-2495 FAX : 048-866-9713

また、別の河川の土手に関する提案事項については、一度さいたま市の河川課までご連絡ください。

（さいたま市建設局土木部河川課）

TEL : 048-829-1585 FAX : 048-829-1988

mail : kasen@city.saitama.lg.jp

（建設局 土木部 河川課）

※参加者との意見交換の議事録は、実際の内容を基に作成していますが、個人情報を含む内容やわかりにくい表現、事件事故について事実の確認ができないものなどについては、加筆・訂正している部分があります。あらかじめ御了承ください。

※意見交換については、開催日時点での内容となっています。その後の状況変化（法令改正など）に応じた修正をしていませんので御了承ください。